

SEE YOU TOMORROW

小劇場演劇全盛時代に成長した劇団「えへくつ」の事務所。ホワイトボードには「さよならなんて言わないプギ。また明日」「アナーキーのような勇気を釣れて？」「タエコ」の貼り紙。ダンスミュージックが聞こえてくる。張り紙の「また明日」にスポットが当たり、だんだん明るくなっていく。舞台が完全に明るくなると、それまで仕事をしていた緒方が立ち上がる。緒方、上手側にあるらしい稽古場に向かって声をかける。

緒方　ねえキミ、いいかげんにしてくんない？

緒方、稽古場に行った。
すると銀治郎現れた。誰もいないのをいいことに、音楽に合わせるように掃除する。逆に汚くなる。

そこへ、緒方と隆弘が稽古場から出てくる。ダンスミュージックは途切れている。隆弘は手にへばいラジカセ。銀治郎、慌てて掃除を始める。

緒方　おい、あんた今何してた。

銀治郎　掃除。

緒方　掃除じゃないでしょ。踊ってたでしょ。

銀治郎　気のせいでしょ。

緒方　気のせいでしょうじゃないでしょ。え？あんた、給料もらって掃除してるんだろ。きちんとしてくれよ。キミもね、時間を守るのって社会人としての常識でしょ。一度ならまだしもキミ、もう何回目よ。

隆弘　すみません。

と、チリンチリン♪とベルの音。

緒方　申し訳ありません、今すぐ、今すぐ参りますので。（と、出口のほうに声をかけ、銀治郎に）おい、戸締り頼むぞ。

銀治郎　わかってますよ。

緒方　ほんとにわかってんのか。

またチリンチリン♪とベル。

緒方　今行きます。（隆弘に）キミ早く帰ってね。また明日。

隆弘　また明日。

そこへ加奈子、下手にある扉の向こうを見つめて、インスタントカメラを巻きながらやってくる。

緒方、加奈子にぶつかる。

加奈子 あ、ごめんなさい。
緒方 ごめんなさい、じゃないでしょ。まったく。先生、朝倉先生（加奈子、素早く扉の向こうにシャッターを切る。しかも目立たないように）、ちよっとお待ちくださいませえ

加奈子 あのっ、えへくつの事務員の方ですか？

緒方 事務長ですが？（ちよっと偉そう）

加奈子 あのっ、あのっ

緒方 うんうん。僕ね、急いでるの。

加奈子 ごめんなさい、あたし、えへくつに入りたい・・・

緒方 ああ、そういう話なら、また明日ね。

加奈子 明日・・・ですか

緒方 あっ、朝倉先生（加奈子、シャッターを切る）、待ってください・・・（去る）

銀治朗 ペっぺ（緒方が去ったほうに唾を吐く）。

隆弘 （緒方が去ったのを確かめて）ユキちゃん、ちよっと練習させて。

銀治朗 もちろん。あたしが掃除終わるまでやってな。次のオーデイション来月だっ

け？

隆弘 ありがとう！

隆弘、ラジカセをかけて隅っこで踊る。微かにダンスミュージック。

銀治朗 あいつさ、いけすかないだろ。

加奈子 え？

銀治朗 さっきの、（緒方の声色を真似て）「僕ね、急いでるの」。かー、ぺっぺ。

加奈子 いえ、そんな。忙しいときに来ちゃった私も悪いし・・・あの、ここ、少し見学していいですか？

銀治朗 いいよいいよ。好きにしな。

加奈子 ありがとうございます。

加奈子、あちこちを見る。「さよならなんて言わないプギ、また明日」の貼り紙を声に出して読む。

加奈子 「さよならなんて言わないプギ。また明日。タエコ。」アナーキーも名作よね・・・

緒方、バナナの皮を片手に戻ってくる。隆弘、慌ててラジカセを止める。

緒方 先生、ホントにバナナ好きだよな。（ゴミ箱に投げ入れたつもりが入らない。しかし気づかない）ねえねえ、傘、ない？傘。外、ひどい雨だよ。

隆弘 傘、ですか。

緒方 あ、それでいい。くれ。

緒方、加奈子が持ってきた傘を指す。

隆弘 え。でもこれ

緒方 朝倉先生がお待ちしてるんだよ。わかんないの？

隆弘 はい(と、渡してしまふ)。

緒方 お待たせしました。え？甘口イチゴスパが食べたい？マウンテン(※2)の？いやあくさすが朝倉先生(加奈子、シャッターを切る)。じゃ、私は納豆山盛りスパとしゃれ込みますかな・・・

といいながら、緒方、消えていく。

隆弘 何してんの、君。さつきから。

加奈子 えへへへ、やったあ、いっぱい写真撮れた！それだけでも、ここに来た甲斐あったな。うん。

隆弘 ファンなの？

加奈子 大ファンです。ほら、(と、かばんの中から「朝倉正日(ジョンイル※1)写真集」と書いてあるアルバムを出して)この前の東京公演の時。「アナーキーのような勇氣を釣れて？」初演のときの朝倉さん。さよならなんて言わないプギ。また明日。

隆弘 こんな古い写真よく持ってるね

加奈子 ネットオークションで落としたんです。これ、九州公演の朝倉さん。成田空港の朝倉さん。

隆弘 マスコミ並みだね、その隠し撮り。

加奈子 公園でタバコ吸ってる朝倉さん。公園であんばん食べてる朝倉さん。公園で鼻くそほじってる朝倉さん。ほじった鼻くそ食べてる朝倉さん。

隆弘 食べるなよ。

加奈子 朝倉さん、今度選挙にも出られるんですよね？私まだ選挙権ないけど、選挙権あったら絶対朝倉さんに投票しますよ。

隆弘 はあ・・・君、入団希望だっけ？

加奈子 はいっ。あの、えへくつの公演見るとついてくる、「えへくつ新聞」ありますよね？あれ見て、ここに来たんです。

隆弘 カメラマンになったほうがいいと思うけどなあ。隠し撮りとかうまそうじゃない。

加奈子 嫌ですよ、隠し撮りなんて。イヤラシイ。・・・それより、あの、どうすればいいんですか？

隆弘 どうすればって・・・、もう事務所終わっちゃったから、また明日ね。

加奈子 また明日・・・

隆弘 緒方さん、たった今帰っちゃったし。

加奈子 そうですか・・・。じゃ、また明日出直します。いろいろありがとうございます

した。何て、おっしゃるんですか？

隆弘 今川隆弘。

加奈子 今川隆弘さん・・・あ、ひょっとしてこの前織田信長やってた・・・

隆弘 それは今川義元さん。俺、出たことないから。

加奈子 あ、裏方さん。

隆弘 あのね、うちの劇団に入るには、まず養成所の研究生にならなきゃいけないの。で、年に2回あるオーディションに受ければ、晴れて劇団員。それまでは、ズーッと、ズーッと研究生。俺はまだ公演なんか出たことないし、多分これから先も出ることはないよ。

加奈子 そんなことわかんないですよ。

隆弘 ・・・・とにかく、今日はもう帰りな。

加奈子 はいっ。ありがとうございました。

加奈子、去ろうとする。

銀治朗、バナナの皮でこける。隆弘がそれを助ける。加奈子、とっさに写真を撮る。

隆弘 ユキちゃん大丈夫？

銀治朗 ありがとう、大丈夫だよ。なんだいこりゃ。

隆弘 バナナの皮だ・・・。

加奈子 さっきの人が捨てていきましたよ。

隆弘 やっぱり君カメラマンになれよ。

銀治朗 朝倉、朝倉。あの人、バナナが大好きだから。

加奈子 そうなんですか？いいこと聞いちゃった。

銀治朗 すごいなのって、ご飯にバナナかけて食べるしみそ汁にバナナ入れて飲むし。

隆弘 すごいっていうか、異常だろ。

隆弘、バナナの皮を几帳面にたたんで捨てる。

銀治朗 あら、ありがとう。あなた、ほんとにいい子ねえ。

隆弘 そんなことないよ。

加奈子 あの、

隆弘 まだいたの？

加奈子 私の傘知りませんか？

隆弘 傘？

加奈子 はい。黄色いパステルカラーで、そこに置いたんですけど。

隆弘 黄色いパステルカラーで、そこに置いた？

間。

隆弘 ごめん。

加奈子 え？
隆弘 さつき、緒方さんに、渡しちゃった。
加奈子 緒方さん？
隆弘 あれ、君のだったんだ。
加奈子 はい。
隆弘 ホントにごめん。
加奈子 いえ、そんな気になさらずに。私も気にしてませんから。
隆弘 そう？・・・ごめんな。
加奈子 いえいえ・・・でも・・・、あたし、どうしよう。

加奈子、むちゃくちゃ落ち込む。

隆弘 ごめん・・・
銀治朗 あたしが来たときはまだ降ってなかったから、ただの夕立。すぐに通り過ぎるよ。しばらくここで待ってたらどう？
加奈子 いいんですか？
銀治朗 もちろんさ。
隆弘 俺もそうする。ユキちゃん、掃除手伝おうか。
銀治朗 まあっ。あんたまで。いいのいいの、あたしの仕事なんだから。それに、あんな(隆弘)には、いつもいつも、感謝してるんだから。

隆弘 何言ってるんの、ユキちゃん。(と、掃除を始める)
加奈子 私もやります。
銀治朗 あら、そう？じゃ、これ。(雑巾を渡す)
加奈子 ・・・(銀治郎の態度の違いに慥然とするもの)はーい。(雑巾を受け取る。)
銀治朗 本当に、すまないね。
隆弘 いいよいいよ。雨やむまで、やることもないし。
加奈子 私も、やることないし。てゆうか傘ないし。
隆弘 ごめん。
加奈子 いえ、別に。
隆弘 ・・・それに俺、明日やめるし。
加奈子・銀治朗 えっ？
隆弘 ここらで、恩返ししとかなないと、ユキちゃんに。
銀治朗 恩返しだなんて・・・言っただしよ。あたしはあんたに感謝してるの。掃除に来て誰も誰一人言葉なんてかけてくれやしない。オカマだって後ろ指さすだけさ。仕事だから、それだつてちつともかまやしないけど、それでも、あんたが毎日「ユキちゃん、お疲れ様」って、言ってくれる、その言葉を聞くだけで・・・うっ、うっ、うっ。
加奈子 そんな、泣かないで・・・(なんとなくもらい泣きしそう)。どうしても、やめるんですか？

隆弘 ・・・いつまでも、朝倉なんかの下にいたくないからさ。
加奈子 朝倉なんか・・・って。うまくいけば朝倉さんの台本に出れるかもしれないん

ですよ？今や世界の朝倉、A、S、A、K、U、R、A、アサクラ！ですよ。なのに、どうしてやめるんですか。来月はオーディションだって、さつきも言ってたじゃないですか。隆弘 うまくいけば、だろ。俺だって朝倉の台本がやりたくてこの劇団入ったよ。あんたと同じさ。えへくつ新聞見て、事務所来て。養成所入って・・・そのまま5年。いつまでたつても舞台には立てない。大体、朝倉は俺たち研究生の演技なんて見たことすらないんだ。俺がどんなに頑張ったって・・・朝倉とは関係ない。

銀治郎 そうだね、あんた、なかなか器用に演技してると思うよ。毎日頑張ってるしね。隆弘 ……でも、朝倉には、関係ない・・・。女の子だったら尚更だよ。あいつ、女好きだからさ。好みの子はすぐにも役がもらえるけど、君は、ちよつと無理だな。

加奈子 そんな。

銀治郎 残念だけだねえ

加奈子 ……私、今日、すごく決心して、来たんです。すごく悩んで、悩んで悩みまくって。それでも、やっぱり舞台に立ちたいって思っただけなのに。

隆弘 ……そんな顔すんなよ。

銀治郎 かわいそうにねえ。つらいねえ。

加奈子 おじさん！

銀治郎、加奈子を一発たたき

銀治郎 ユキです。(かわいく)

加奈子、無言で何度も頷く。

銀治郎 はい、もう一回。

加奈子 ゆ、ユキちゃん！

銀治郎 ! (名前を呼ぼうとするが名前を知らないことに気づく)

加奈子 あ、加奈子です。三笠加奈子。

銀治郎 ごめんごめん。テイク、スリー。

加奈子 ユキちゃんっ！

銀治郎 かなこちゃん！

抱き合おうとすると、加奈子、落ちているメモ帳を見つめる。
空を切る腕を見つめる銀治郎。

加奈子 あら？何ですか？これ。

と、メモ帳を見せる。

加奈子 1 バナナ、2 バナナ？

隆弘 何だそれ。

加奈子 5月5日、バナナ10本をゴルバチョフ(※3)に。
銀治郎 朝倉、朝倉。バナナといえば朝倉よ。
加奈子 バナナごはんはんにバナナみそ汁ですものね。
隆弘 何か、おかしくないか？
加奈子 そうですか？
銀治郎 そんなことないよ。だって朝倉でしょ、バナナでしょ。ほら結びつく。
銀治郎・加奈子 ねーっ。
隆弘 冷静になれよ。いくらバナナが好きでも「1バナナ、2バナナ」って、こんな
メモの仕方はおかしいだろ。
阿部 金ですよ。

一同、いつせいに声の方向を見る。
片隅に、阿部がいる。

阿部 バナナってのは金のことです。バナナ1本を百万として計算しているんですよ。
加奈子 バナナ1本百万円だと、10本で
隆弘・銀治郎 一千万円!？
加奈子 じゃ、この「バナナ 10本ゴルバチョフに」ってのは・・・
阿部 市議会議員ゴルバチョフに一千万円渡したってことですね。
隆弘・銀治郎・加奈子 一千万円!？

隆弘 そんなバナナ。

一同、隆弘を見る。

隆弘 ごめん。
加奈子 どういうことなんですか？一千万円って
銀治郎 そうだよ、それに何であんたはそんなこと知ってるのさ。
隆弘 てゆうか、あんた誰？

問。

加奈子・銀治郎 そういえば。
阿部 阿部です。
隆弘 矢部さん？
阿部 阿部です。
加奈子 いつから？
阿部 最初から。
銀治郎 最初？
阿部 そう、最初。
隆弘 最初って？

阿部 舞台に照明が点いた時から。
隆弘・加奈子・銀治朗 そんな時から。
隆弘 ごめんなさい、全然気が付かなかった。
阿部 いいんですよ。私のことなんて、気がつく人はいないんです。この劇団の設立当初からのメンバーなのに・・・いつもいつもそうなんです。皆朝倉を注目はすれど、私のことなど歯牙にもかけない。いいんです、いいんです気にしちやいませんから。
加奈子 あ、本当に、ごめんなさい。
阿部 いいえいいえ、気にしていませんから。それにね、私だって、無駄にここにいたわけじゃないんです。その裏金の秘密・・・ここで存在感がなかったからこそ、わかったのです。
隆弘 そうだ、その、どういうことなんです、これは
阿部 これは・・・

一同をぐつと見渡す。

阿部 献金です。
加奈子・隆弘・銀治朗 けんきん？
阿部 そうです。これは献金です。政治献金です。
加奈子・隆弘・銀治朗 政治献金！
阿部 朝倉が、次回の選挙に出馬することはご存知ですね。

加奈子 「さわやか！演劇界の星」ですよ。私、ポスターもらっちゃったんですう、
(ポスター後ろ向きに見せる) 素敵ですよ、朝倉さん！
隆弘 それ、選挙ポスターでしょ？どこでもらってきたの？
加奈子 表にポスターばかり貼ってあるところありますよね。そこから朝倉さんの分だけ一枚失敬したんです！
隆弘 それ選挙妨害だよ
加奈子 そうなんですか！？やだ、どうしよう。
阿部 ふん、朝倉は政治献金を行っているのです。選挙妨害なんて、かまうものか。
銀治朗 そうだ、その話、もっと詳しく聞かせてちょうだいな。
阿部 朝倉は、市議会議員ゴルバチョフに献金をしているのです。次の選挙で勝つように、細工を頼んでいるようです。それも、きみたち研究生からの授業料や劇団の興行収入で。

隆弘 なんだって！
阿部 私は実際に聞いたのですよ、この耳で。あれはちようどこんな雨の日。私はいつものように、ここで紙を切っていた。チヨキチヨキチヨキ・・・気の遠くなるような作業だ。そこへ、朝倉と緒方がやってきた。奴らは私に気が付きもしなかった。始めは、奴らの会話を聞く気などなかったのですよ。ところが、途中でその内容のおかしさに気がついた。
隆弘 おかしさ？
阿部 言い出したのは緒方だ。奴はいつも朝倉のそばで甘い蜜を吸おうとする。

加奈子 あの人、そうなんですか。

銀治朗 ああ、いつも朝倉にべったりしちやつてさ。べっぺっぺ！

阿部 「朝倉先生、今度の選挙、うまくいきそうですか？」すると朝倉は答える。「いやあ、どうだかね」。緒方が言う。「実は、選挙に協力してくれそうな議員を一人知っているんですよ。お金の分くらいは、きちんと働いてくれますよ」。

隆弘 ……それは、とんでもないことを聞きましたね。

加奈子 本当に、とんでもないことですね。

隆弘 事件だな。

銀治朗 ねえ、あんた、どうしてそれを訴えないのさ。

阿部 私なんかが訴えても…誰も聞いちやくれませんよ。

隆弘 でも、これは大事件だぜ。

阿部 いいえ、聞いてくれないのです。私は、存在感のない男ですから。

加奈子 そんなこと、ないと、思いますよ。

阿部 ほら、フオローがたどたどしい。

加奈子 ごめんなさい。

阿部 いいんですよ、それに、あなただつて私のことなど覚えていないでしょう。銀

治朗さん。

隆弘・加奈子 銀治朗？

銀治朗 なぜその名を！

隆弘・加奈子 ユキちゃん！

銀治朗 脱サラした時に捨てた「銀治朗」の名を知っているなんて……あんた、一体何者だい。

阿部 ほら、やっぱり覚えていない。私はね、あんたと同じ大学で、朝倉と一緒に劇団にいた男ですよ。

銀治朗 そういえば、そんな男もいたような。あたしや、あの頃は朝倉のことしか目に入っていなかったからね。

加奈子 ユキちゃん、朝倉さんと同じ大学だったんですか？

阿部 彼だけではない。私も同じだった。(誰も聞いてない)

銀治朗 忘れもしないよ。大学時代…ともにナゴヤカ工業大学で学んだんだ。朝倉と一緒にカツ丼を食べた食堂。朝倉と一緒に歩いた鶴舞公園の散歩道。「朝倉くん、手をつないでもいい？」「いいよ、何気にしてんだよ、銀ちゃん」ぎゅっ……人生で一番、幸せな時間だった…。(うっとり)

加奈子 いいですねー、幸せそうですねー。

銀治朗 それなのに、あいつは、朝倉は、さつさと女に乗り換えたのさ！そのショックであたしや単位は落とすし、就職試験に落ちるし、人生を棒に振っちゃまったんだよ！それに何さ緒方の奴！いっつも朝倉にべったりくつついちゃつてさ！まさかあの二人……できてるんじゃないでしょうね。

加奈子・隆弘 えっ！

阿部 いや、そりやないでしょう。それに朝倉は…

銀治朗 ああ、何て憎たらしい！あたしを捨てておきながら緒方とラブラブになってるなんて。きい、朝倉のせいで、あたしの人生が狂ったんだ！あんな男に惚れたりしなけりや……

阿部 なるほど……銀治朗さんも、朝倉に恨みがあるわけですね。

銀治朗 ユキちゃんよ！

隆弘 皆朝倉に恨みがあるようだな。

加奈子 あたし違いますう。

阿部 これだけの話を聞いても目が覚めないのですか。

加奈子 ……。

阿部 ……なあ、この帳簿、便利な小道具だと思わないか？

隆弘・加奈子・銀治朗 その帳簿が？

阿部 そう。あのにつつき朝倉を、ぎやふんと言わせることの出来る小道具だ。

隆弘 ぎやふんと。

加奈子 ぎやふん。

銀治朗 ぎやふん。

隆弘 いいね！

銀治朗 そ、そうだよ、ちよつと、いいんじゃないの？

加奈子 な、何をするんですか？？

阿部 ちよつとおどすだけですよ。

加奈子 おどす！？

阿部 何を驚くのです。「天下の大劇作家」と日本全国で騒がれて、ワイドショーに出れば奥様たちが色めき立つ。その朝倉の、裏の部分を見せつけてやりましょう。皆びっくりしますよ。朝倉の面目が丸つぶれになるばかりかこの劇団の設立者としての地位も危うくなるでしょう。

加奈子 そんなの困るじゃないですか。

隆弘 何を困ることがある？

加奈子 だって、そうしたらこの劇団つぶれちゃうし……

隆弘 だからって、不正を見過ごすわけにもいかないだろ？それに、この劇団は朝倉のためだけのものじゃないぞ、俺たち研究生のものでもあるんだ。

阿部 よく言った！

銀治朗 そうだよ、隆弘ちゃんたちが、これから先の演劇界を背負って立つ人間なんだから！

隆弘 いや、そんなあ（照れる）

加奈子 それは、そうかもしれないけど……

隆弘 じゃあ決まりだ。

銀治朗 よし、朝倉の電話番号、わかるかい？

隆弘 緒方さんの机の中にないかな。

銀治朗、探そうとする。

阿部 電話をしてどうする。

一同、阿部を見る。

隆弘・加奈子・銀治朗 えっ？

銀治朗 あなたのいけない帳簿を預かっていますよ・・・

阿部 それで？

銀治朗 返して欲しくば一千万円・・・

阿部 そんな普通でいいのか？

隆弘・加奈子・銀治朗 えっ！

阿部 今までの恨みを、そんな簡単に晴らしてしまつて、いいのか？

隆弘・加奈子・銀治朗 えっ！

阿部 せっかくこんな武器を手に入れたんです。もつと、特別な、そう、今までにはなかつたような斬新な復讐の仕方をお願いします。

隆弘・加奈子・銀治朗 斬新・・・たとえば？

阿部 たとえば・・・

問。

阿部 考えていません。

加奈子 何だ

阿部 しかし、三人寄らば文殊の知恵ということわざもあります。四人もいれば、文殊どころではないでしょう。

加奈子 ひい、ふう、みい・・・あたしも入ってるの？

銀治朗 何かいい案ないかねえ。斬新なアイデア！

加奈子 やっぱり、警察に届けましょう。

隆弘 警察に届けるだけじゃ俺たちの復讐にならないよ。

阿部 そう、我々がやりたいのは復讐なんだ。

加奈子 復讐・・・でも、正義をまっとうしようとしてもしてるんですよね。

銀治朗 そう！そうだよ、あたしたちのやる復讐が、社会的には正義になるんだよ。

加奈子 一石二鳥ですねっ！

隆弘 だとすると・・・

阿部 マスコミだ！マスコミに訴えるんだ。

銀治朗 マスコミ！？

加奈子 新聞社とかに、ファックス流すんですね。

隆弘 我々は朝倉の秘密を知る者である・・・とかいう文書を作つて

銀治朗 大ニュースだよ、これは。朝倉は有名だしね。

加奈子 そうですよ、ワイドショーにも、ゴールデン番組にも出てるんですもの。

阿部 週刊誌なんか、馬鹿みたいに騒ぐぞ。

隆弘 それならむしろ、本を出版してもいいんじゃないか！？

阿部・加奈子・銀治朗 出版！？
隆弘 そう、我らが知る、大作家・朝倉の実態！ってかんじで。いきなり前触れもなく出版するんだ。こんなおいしい話、とびつかない出版社もないだろう！
加奈子 面白いですね！
銀治朗 タイトルも考えなきやね。
加奈子 何かいいのありませんか？
阿部 ……「ダディ」(※4)なんてどうだ！？
隆弘・加奈子・銀治朗 「ダディ」！？

GOLDEN FINGER'99 (※5) かかる。

阿部、歌う。

ダンサー現れて踊る。

阿部、「♪ジャパン」まで歌う。ダンサー去る。

間。

阿部 取り乱しました。
隆弘 でも、出版での、なかなか良かったんじゃないかな？
阿部 しかし、今考えたんだが、

加奈子 歌いながら考えたんですか。
阿部 やはり出版だけでは威力が弱い。何より時間がかかりすぎる。
隆弘 そうか、今すぐにも何とかしたいのに、出版だと
銀治朗 2〜3ヶ月はかかるね。
隆弘 阿部さんの言うとおりだな。時間がかかるのは良くない。
阿部 もっと効果的な方法はないか。
銀治朗 そうだ！
阿部・隆弘・加奈子 何だ！？
銀治朗 この帳簿を、300部くらいコピーして・・・
阿部・隆弘・加奈子 コピーして？
銀治朗 毎日1通ずつ朝倉に送りつけるんだ。日に日に送る文書の数を増やしていく。
自分の秘密を知る何者が毎日自分を見張っている・・・どうだ、怖いだろう！？
隆弘 もちろん、差出人の名前は伏せておく。
阿部 精神的に追い詰めることが出来ますね。
隆弘 よし、早速コピーだ！
加奈子 待ってください！

一同、加奈子を見る。

加奈子 そんなの、そんなの、悪い人みたいじゃないですか。

隆弘・銀治朗・阿部 悪い人？

加奈子 だって、ストーカーとか、暗い犯罪者みたいじゃないですか。いけませんよ、悪いことは。

隆弘 それ、そうか。

銀治朗 たしかに、悪いことだなあ。

隆弘 悪いことは、やっちゃ駄目だよな。

阿部 そうだ、我々のやらんとしているのは正義の所業なんだ。

銀治朗・隆弘・加奈子 正義……(かみしめる)

加奈子 ……いいですね。正義。

隆弘 正義か……。

銀治朗 正義……。

阿部 社会悪を退治する。

隆弘 いいっ。

加奈子 なんか、なんか、いいですねっ。正義の味方！ってかんじですね！

銀治朗 チーム名とか、欲しいね。特捜最前線！とか。

隆弘 それはチーム名じゃないでしょう。ギンガマンとか。ガオレンジャーとか(興奮気味)

加奈子 それも違います。

阿部 イラク攻撃に反対する会(※6)、なんてのはどうだ。

加奈子 あ、いいですねっ。

隆弘 いや、でも今は関係ないでしょう。

阿部 だけど大事な問題でしょう。

隆弘 いや、大事だけど、今は関係ないじゃん。

阿部 すさみきったこの社会に対していかに正義の力で立ち向かうことが出来るかという点で共通しているのですよ。

銀治朗・隆弘・加奈子 なるほど。

銀治朗 じゃあ、「チーム・イラク攻撃に反対する会」ってことで！

隆弘 よしっ！それじゃ、続きを考えよう！

加奈子 チーム・イラク攻撃に反対する会！出動！ですね！

銀治朗 いいねえ。

隆弘 よ、よし！チーム・イラク攻撃に反対する会、出動！

銀治朗・加奈子・阿部 ラジャー！

加奈子 リーダー！

隆弘 え？俺？

銀治朗 そうだね、リーダー！

隆弘 あ、いやあ(照れる)

阿部 リーダー、話を続けましょう。

隆弘 うむ！(ノリノリ) 諸君！

銀治朗・加奈子・阿部 イエッサー！

隆弘 我々は打倒朝倉の計画実現のために、様々な計画を練った。

加奈子 まだ一つですけどね。
隆弘 「出版」という案は良かった。しかし、タイムラグという問題点が指摘された！
諸君、他に案はあるか？
銀治朗 あ、コピーして・・・
加奈子 だから、それじゃ悪い人ですよ。
銀治朗 一部だけコピーすればいいだろ？で、それを送りつける。
加奈子 送りつけるってのが、暗いんですよ。
銀治朗 何よ、さっきから。いちいちあたしのすることにケチつけて。
加奈子 ケチじゃないです。どうしてそんなひねた考え方ばかりするんですか。だから
朝倉さんにも振られたのよ。
銀治朗 何だとお！？
隆弘 そうだ！

一同、隆弘を見る。

隆弘 献金つてことは、取引相手がいるんだよね！？
阿部 市議会議員のゴルバチョフだ。
隆弘 その、ゴルバチョフに脅しをかけてもいいんじゃないか。
加奈子・銀治朗・阿部 いいねえ！
加奈子 そうですよ。

銀治朗 あんた賢いねえ！
阿部 いや、良い視点です。
隆弘 これで行きましょう。
銀治朗 正義だね！
加奈子 正義です！
阿部 正義だ！
四人 正義！チーム・イラク攻撃に反対する会！

決めポーズ。

間。

隆弘 決まった・・・
加奈子 はあああああ（感動のため息）
阿部 いい・・・
銀治朗 いいわあつ。
隆弘 な、なんか、俺たち、結構いいかんじですよ？

加奈子、すかさずカメラを構える。他の3人、素早く集まる。セルフ撮り（※7）

阿部 息もピツタリ。
隆弘 よーし！俄然やる気が出てきたぞ！
阿部 じゃ、まずはこの帳簿で相手をゆするということだ。
銀治朗 社会正義だね。
隆弘 正々堂々とゆするんだったら、暗くないしな。
阿部 堂々としています。
加奈子 でも、どうやってゆするんですか？
阿部 良い指摘です。
隆弘 それが問題だ。
銀治朗 簡単なことさ。このゴルバチョフ市議会議員の事務所に押しかければいいんだ。
加奈子 押しかけるって、どうやるんですか？
銀治朗 あたしにまかしといて。

銀治朗、CDをセットする。
昼メロっぽい音楽入る。銀治朗、腰をくねらせて阿部に近寄る。

銀治朗 こんにちはー！
阿部 うわ！何だね、ノックもせずに。
銀治朗 いいじゃない、あんたと私の仲じゃないのさ。
阿部 どういう仲なんでしょう（素朴に）

銀治朗 へー、いい事務所構えてんじゃないの。
阿部 あっ、こら、勝手に事務所を荒らすな！
銀治朗 荒らしてなんかないわよ、世話したいだけじゃないの。
阿部 世話？
加奈子 押しかけ女房って奴ですね。
阿部 私はお前の世話などいらん。
銀治朗 いいじゃないの、世話させてちょうだいよ。
阿部 いらんったらいらん。
銀治朗 そう、じゃあこの帳簿のこと、言ってもいいのね？
阿部 な、なにっ！？
銀治朗 知ってるのよ、あなたが朝倉からお金を受け取ってること。
阿部 なぜそれを・・・
銀治朗 次の選挙で朝倉が当選するように細工してるんですって？
阿部 何が目的だ！
銀治朗 目的？決まってるじゃない。
阿部 ・・・・いくらだ。
銀治朗 そうね・・・マンション二つと、一億くらいかしら。
阿部 い・一億、と言おうとしたところで、隆弘の声が入る。音楽も止まる（
隆弘 ちよつと待ってください。
阿部・銀治朗 えっ？

隆弘 俺たちの目的はお金じゃないはずですよ。あくまでも「社会正義」に乗っ取った復讐です。

加奈子 そうですよ。お金もらったら、犯罪になっちゃいますよ。

阿部・隆弘・銀治朗 犯罪！

笑点や吉本新喜劇っぽくBGM（※8）。

スタッフが現れる。

スタッフ1 どうもー。

スタッフ2 どうもー。

一ネタ。

加奈子 わかりました！犯罪と漫才をかけてるんですね！

スタッフ1・2 ばんざーい！

隆弘 犯罪と万歳をかけた洒落か・・・

スタッフ1・2 ばんざーい！ばんざーい！ばんざーい・・・

スタッフ1・2、万歳しながら消えていく。

阿部 話を戻そう。

隆弘 えー、ごほん、諸君！何かいい案は

銀治朗 あたしの案は何がいけないって言うんだい？

加奈子 だから、犯罪になっちゃうんですよ。

隆弘 そして、犯罪をすると今の漫才師が出てきちゃうんだ。

銀治朗 じゃあ、どうするって言うんだい。コピ―見せて、はいさよなら、じゃ意味ないだろ？

隆弘 だから・・・

加奈子 もっと、あたしたちが欲しいものを言えばいいんですよ。

隆弘 欲しいもの？

加奈子 お金じゃなくって・・・。だから、朝倉さんと関わったことで、皆さん何かを失っているんですよ。だったら、その失った部分を埋めるようなことを要求すればいいじゃないですか。

銀治朗 なるほど。あんた、やるわね。

隆弘 じゃ、俺は、こうだな。こんにちは。

再び場面はゴルバチョフの事務所。

阿部 あ、何だね？

隆弘 実は僕・・・こんなものを入れたんですけど。

阿部　　そ、それは、
隆弘　これ、ばらまかれたら、まずいですよね。
阿部　返しなさい。何が目的だ。
銀治朗　ここで！
隆弘　やくだよ。

一同、固まる。

阿部　や、やくって・・・
隆弘　ん？
阿部・加奈子・銀治朗　麻薬！？
阿部　朝倉はそんなものにまで手を出していたのか・・・
銀治朗　麻薬だなんて、朝倉もどこまで堕ちていくのか。
加奈子　嘘よ、嘘でしょ。(ちよつと芝居がかつてる)
隆弘　違うっ！やくですよ、俺の言ってるのは、キャストって意味の役！
阿部　ああ、これはこれは。
銀治朗　とんだ間違いだっただね。
加奈子　ほーらやつぱり嘘だった。
阿部　さすがの朝倉も、そこまでね。
隆弘　そうだよ、いくら朝倉が悪人つつつても・・・

阿部・加奈子・銀治朗　悪人・・・
隆弘　え？
銀治朗　悪人か・・・言われてみればそうかもしれない。
隆弘　え??
銀治朗　だって、これだけの人間に恨みを買ってるんだ。悪人じゃないわけないだろ？
隆弘　そうか、そういえば。
阿部　確かに朝倉は「悪人」と言うにふさわしい男です。
加奈子　でも、本当の悪人だったら、麻薬とかもやつちゃうかもしれないけど・・・
銀治朗　そうだね！本当の悪人だったら麻薬にも手を出しちゃうよね！
加奈子　その点朝倉さんは・・・
隆弘　本当の悪人だ！
銀治朗・阿部　そう、本当の悪人だ！
加奈子　あれっ？
隆弘　やってるよ、麻薬くらい。
銀治朗　そうだね、なんてったって悪人なんだから。
隆弘　きつと暴力団なんかとつながりがあるって、そこから売買してるんじゃないか？
加奈子・銀治朗・阿部　想像だよ、想像。
加奈子・銀治朗・阿部　想像ね、想像。

間。

加奈子 そんなわけないですよ。
銀治朗 いくらなんでもないよね。
隆弘 想像だしね。
阿部 しかし朝倉は大悪人だ。

一同、阿部を見る。

加奈子 やっぱり、そういうことも有りえるんでしょうか！？
銀治朗 朝倉はなんてったって、大大悪人だしね！
隆弘 あってもおかしい話じゃないね！
阿部 可能性としては有りえる。
加奈子 お芝居みたいですね。
銀治朗 お芝居だったら、今ごろ暴力団がやってくる頃だよ。
隆弘 手を引け！とか言っつてさ。
阿部 そういえば・・・その可能性もありますよね。

間。

加奈子 ・・・・どうやって、来るんでしょう。
銀治朗 さあ、よく知らないからね。
阿部 私もさすがに・・・
隆弘 ドラマなんかだと、こんなスーツ着てるよね。

隆弘、衣装ケース開けて衣装を着る。

加奈子 そう、そんなかんじ。
阿部 で、チャカとか持つてるわけですよ。

衣装ケースから拳銃を出す。

加奈子 あ、それ、
隆弘 この前の公演で使った小道具だ。

隆弘、ポーズを決める。

銀治朗 で、罵声をあげながら入ってくるんだよね。
隆弘 こうかな？

隆弘、入り口付近に行く。

隆弘 おう！ごめんよ！

加奈子 うわあ、迫力！

銀治朗 何だい、あんた。

隆弘 あんたら最近、うちの先生脅してるそうじゃないか。

阿部 なんの話だ。

隆弘 とぼけんじゃねえよ、このすつとこどっこい！

加奈子 すつとこどっこい、ふふっ（ウケる）

隆弘 笑ってんじゃねーっ！

隆弘、一発撃つ。

何も音がしない。

隆弘 やつぱり、効果音欲しいですよね。

阿部 じゃあ私が入れましょう。音は・・・たしか、このへんに、前の公演で使ったテープが・・・あった。

阿部、セットする。

阿部 じゃ、もう一度、お嬢さん、笑って。

加奈子 こ、こうですか？ぬふふふ。（不気味に笑う）

阿部 なんかわ違うけど、いいでしょう。じゃ、いきますよ、キュー！

加奈子 ぬふふふ。（より不気味に）

隆弘 わ。笑ってんじゃねー！

効果音、バキューン！

銀治朗 な、何するんだい！

加奈子 怖い！

銀治朗 大丈夫かい？

加奈子 お母さん・・・

隆弘・阿部・銀治朗 えっ？

加奈子 え？お母さんっていう設定のほうが面白くないですか？

隆弘・阿部・銀治朗 面白い！

隆弘 いいね、それ。

阿部 それで行こう！

銀治朗 じゃ、もう一回、もう一回、銃を撃つところからやってくれるかい？

阿部 いきますよ、キュー！

隆弘 笑ってんじゃねー！

効果音、バキューン！

銀治朗 な、何するんだい！

加奈子 怖い！

銀治朗 大丈夫かい！？

加奈子 お母さん・・・

銀治朗 この子が何をしたって言うんだい！

隆弘 命が惜しけりや、この件から手を引きな。

加奈子 いやよ、それだけは絶対に嫌！

銀治朗 あんた、そんなこと言っ

加奈子 このままじゃ、日本は悪くなるばかりだわ。誰かが犠牲になっても行動を起

こさない駄目なのよ！

銀治朗 加奈子！

加奈子 おかあさん！

抱き合う。

銀治朗 撃つなら、あたしを撃ちな！青二才！

隆弘 どうやら本気で死にたいらしいな！（構える）

加奈子 いやあああ！お母さんを撃たないで！あたしを撃って！

銀治朗 加奈子！

このへんから、阿部、感動のBGMを流す。

加奈子 お母さん、あたし、あたし、正義、なんて言葉のもとで・・・お母さんに迷惑

かけて・・・ごめんなさい。えへっ・・・勘当されて、当然よね。

銀治朗 加奈子。

加奈子 今まで親不幸な娘でごめんなさい。でも、でも、あたし、お母さんに死んで欲

しくない！

隆弘 ば、ばっきやーろ、俺はそんなのにだまされないぞ。

加奈子 さあ、撃ちなさいよ。あたしは平気よ。

銀治朗 馬鹿なことを！あたしを撃つんだ！

加奈子 お母さん！いいの、自分のせいだもの、あたしが死ねばすむんだもの！

銀治朗 加奈子！

ピンタ。

加奈子 ・・・・お母さん？

銀治朗 たしかに・・・あたしはあんたに苦労させられたよ・・・あんたが暴走族に入

った時・・・どうしようかと思った・・・泣いても泣いても、あんたはあたしをうるさがるだけ。ようやく足を洗ってくれて、なんとかなるかと思ったら今度は平和活動の過激グループに加わって・・・お母さん、本当に寿命が縮んだよ。

加奈子　ごめんなさい、だから、今その罪を償わせて。

銀治朗　馬鹿だね。馬鹿だねえ。(泣いて、加奈子を抱きしめる)。あたしはね、そんなことはどうでもいいの。あんたが生きていてくれれば、それでいいんだよ。あたしも確かに感情的に怒ったこともあった。だけどね、あたしは、母親だよ。あんたに、生きていて欲しいんだよ。あんた・・・これ以上お母さんを悲しませるつもりかい？

加奈子　お母さんっ。

銀治朗　さあ、撃ちな。

加奈子　そんなあ！(泣く)

隆弘　・・・ばっきやーろ・・・

銃を落とす。

隆弘　あほらしくて・・・殺す気も失せたよ。くううっ(泣く)

銀治朗　あんたも早くこの世界から足を洗いな・・・おっかさんが、泣いてるよ。

隆弘　おっかさん・・・へへ、目から汗が出たら。ああ、チクシヨウめ！相手してらんねーよ。あばよ。

加奈子　さよなら！

銀治朗　達者だね。

隆弘　うっ、おめえら、殺そうとした奴に言う奴が・・・あるか。

隆弘、泣き崩れる。

阿部、大団円の音楽を流す。

阿部、拍手をする。

阿部　素晴らしい！

隆弘　今の・・・良かったよね？

加奈子　あたし、本当に涙が出ちゃった。

銀治朗　一級作品だったね？

阿部　いや、私ついついハンカチを用意してしまいました。

隆弘　なんか・・・なんか俺たち・・・

銀治朗　いいね、これ。

加奈子　面白かったです。

阿部　最初の趣旨とはズレましたが。

隆弘　確かに。

加奈子　朝倉さんの話、どっか行っちゃいましたね(笑う)

隆弘　いいな・・・

銀治朗　え？

隆弘 いや、この四人で、芝居作っても楽しいかなってね。
加奈子 そうですね。

隆弘 四人で、劇団、作ろうか。

阿部 いいですね。

隆弘 いつも、えへくつのレッスンが終わったあと、この時間に、この場所で活動するんだ。

銀治朗 鍵ならあたしが持つてるし。

阿部 この勝手は知り尽くしてる。

加奈子 いいですね！

銀治朗 劇団名は、ほら、さっきの

四人 「劇団・イラク攻撃に反対する会」！

決めポーズ。

間。

笑う。

隆弘 じゃ、もう一回やりますか。

阿部 そうですね。今度はズレないように。

銀治朗 そうだよ。やっぱり、朝倉に直接仕返ししないと意味がないよ

加奈子 そうですよ。

隆弘 よし、じゃあ、朝倉を呼び出すことにしよう。

加奈子 だけど、朝倉さんほどの方が私たちの呼び出しに応じるかな？

銀治朗 あいつは女に弱いんだよ。

隆弘 そうか！（加奈子を見る）

阿部 じゃあ、（加奈子を見る）

銀治朗 あたしが電話するしかないね。

隆弘 阿部・加奈子 えっ！

銀治朗 いや、きつと朝倉は若い子が好きだと思っただけど・・・

銀治朗 あたしだってまだまだ若いよ。それに、あたしと朝倉は昔、恋人同士、だった

んだからあ

阿部 いや、恋人同士っていうか、それは

加奈子 若くていいなら、隆弘さんでもいいんじゃないですか？

隆弘・阿部・銀治朗 えっ！

加奈子 とりあえず、やってみましょうよ、今すぐ呼び出すわけでもないし。

阿部 そうですね。いいでしょう。

銀治朗・隆弘 いいのか？

阿部 行きますよ。キュー！

隆弘 トウルルルッ、トウルルルッ。朝倉さん？

加奈子・阿部・銀治朗、顔を見合す。

隆弘 朝倉さん？あたしだけどお、今から来れる？

加奈子、隆弘と目が合う。

加奈子 えっ。

隆弘 何黙ってんのよう。

加奈子 い、いけるさ、ベイビー。

隆弘 きやはっ。じゃ、いつもの場所で待ってるわ！

加奈子 いつもの場所？

隆弘 いつもの場所よ。

加奈子 いつもの場所って・・・

阿部 (小声で) 適当に！

加奈子 あー、あそこね！オツケイオツケイ子猫ちゃん。

隆弘 待ってまーっす。カチャ・・・これでいいのか？

銀治朗 ・・・・かわいかったよ。

阿部 素質がある。

隆弘 何の素質ですか。

加奈子 ガチャ(扉を開けるマイム)。ハイ、子猫ちゃん。

隆弘 あっ！来た！朝倉だ！

加奈子 わっ！何だね君たち！僕のスイートハニーはどこだい！？

隆弘 ふふふ、引つかかったな、朝倉。

銀治朗 あんたの女好きは昔から変わらないねえ。

加奈子 お、お前は！

銀治朗 ここで会ったがア百年目。あんたに捨てられた女のオ、いや、オカマのオ、涙。

恨み晴らさでおくべきかア！(妙に芝居がかりすぎ)

隆弘 こちとら、あんたの秘密を握っているんだ。

加奈子 何のことかな？

銀治朗 (帳簿を出して) あ、これをお見ても

隆弘 (銀治朗から帳簿を奪って) これを見ても、まだとぼけていられるかな？(と、

帳簿を見せる)

加奈子 そ、それは！

隆弘 政治献金・・・この話が世間に知れたらどうなるかな。

加奈子 ・・・・ちっ。知られちまったか・・・

阿部 「さわやか！演劇界の星」が聞いてあきれれる。

隆弘 俺たち、あんたを恨んでるんだ。ただで済むと思うなよ。

加奈子 ただで済むと思うなよ、か。笑止！

銀治朗・隆弘・阿部 何っ！

加奈子 それはこっちの台詞だ。行け！緒方！

隆弘・銀治朗・阿部 緒方？

加奈子 え？だって、緒方さんて、いつも朝倉のそばにいるんでしょ？だったら、朝倉さんが「行け」って命令したら、行くんじゃないでしょうか？

隆弘・銀治朗・阿部 なるほど！

阿部 そうですね、緒方の朝倉への媚の売りようは、並大抵じゃありませんからね。

隆弘 はいはいって、何でも言うことを聞くロボットみたいなもんだからな。

加奈子 ホントにロボットだったたりして。

銀治朗・隆弘・阿部 えっ。

加奈子 実は、朝倉さんが作ったロボットとか、人造人間ですよ、緒方さん。

銀治朗・隆弘・阿部 えっ。

加奈子 なんちゃって。

隆弘・阿部・加奈子 なるほど！

加奈子 えっ！

阿部 朝倉は、高専時代にロボットコンテストにも出場していたくらいです。

銀治朗 昔から頭が良かったからね。

隆弘 そういえば！俺と一緒に入った水谷さん、2年前から消息が絶えたんだ。

加奈子・銀治朗 まさか！

隆弘 きつと、朝倉に改造されちゃったんだ。

加奈子・銀治朗 改造！

隆弘 緒方も、朝倉に改造された人間なんだよ。

加奈子・銀治朗・阿部 なるほど！

銀治朗 だから、納豆山盛りスパも平気で食べれるわけだね。

阿部 そうか、緒方は改造人間だったのか。

加奈子 でも改造人間なんか作ってどうするんでしょうね？

隆弘 自分の言うとおりに動く人間が欲しかったんだろ？

阿部 それだけかな？

隆弘・加奈子・銀治朗 えっ！？

阿部 今回の政界進出といい・・・朝倉はもっと大きなことを考えているような気がするのですよ。

加奈子 あ、知ってます、ポスターに書いてありました。「日本をよくする」って。

隆弘 そんな建前だろ。

銀治朗 もっと大きなこと・・・

阿部 もっと大きなこと。

隆弘 あーっ！（でかい声）

阿部・加奈子・銀治朗 あ？！

隆弘 俺、今、すごいこと考えちゃった！

阿部・加奈子・銀治朗 すごいこと！？

隆弘 でも、まさか、そんなこと、ないよね。

加奈子 何なんですかあ。

隆弘 いや、あんまりにすごすぎて、言えない。
銀治朗 気になるよ。
阿部 いいじゃないですか、どうせ我々しかないんです。
加奈子 教えてください。

間。

隆弘 世界征服、かなーって。
阿部・加奈子・銀治朗 え？
隆弘 いや、世界征服・・・

間。

隆弘 なんて、さ、あはははは、そんなわけないよね。あはははは
阿部 鋭い！！！！
隆弘 えっ！
阿部 私もそうじゃないかと思っていたのですよ！
加奈子 は！今こそ出番じゃないですか！
銀治朗 そうだよ！「チーム・イラク攻撃に反対する会」！
隆弘 正義のために。

阿部 平和のために。
加奈子 我々の出番です、リーダー。
隆弘 う、うむ！出動！
銀治朗・加奈子・阿部 ラジャー！！
阿部 じゃ、続きから。お嬢さん、朝倉、お願いします！
加奈子 はい！
阿部 いいですか？3、2、1、キュー！
加奈子 行け！緒方！
銀治朗 合点だい！ウイ〜カシヤン（機械音）、ウイ〜カシヤン。
隆弘 歩くときに、機械音がするぞ！さては貴様、改造人間だな！
銀治朗 今ごろ気が付いたのか！私は改造人間・緒方だったのだ！
加奈子 はーっはっはっはっはっはっは！やれ！緒方、やってしまえ！
隆弘 くそ、そっちがその気ならこっちだって・・・おじさん、
加奈子 おーっと、その男もすでに私が手術を施してある！
隆弘・阿部 えっ！
阿部 い（慌てる）、いつの間に！
加奈子 私が動けと言えば動くはずだ！動け！
阿部 ウイ〜カシヤン。
隆弘 ああ！おじさんからも機械音が！
加奈子 貴様は私のことを知りすぎてしまったようだ・・・。死んでもらう。

加奈子、チャカを構える。

銀治朗

朝倉先生、構え方が逆です。自分に当たっちゃいますよ。

加奈子

う、わざとだ！そういう小ネタも必要かと思つてな、気配りだ。

銀治朗

さすが朝倉先生。

阿部

朝倉先生が直接手をかけずとも、我々がなんとかしましょう、こいつごときは。

加奈子

う、うむ、そうしなさい。

銀治朗

覚悟はいいか？

隆弘

お、緒方め・・・

銀治朗

残念だ。

隆弘

えっ。

銀治朗

君を殺してしまうのは非常に、残念だ。

隆弘

お、緒方さん・・・

銀治朗

君は非常に優秀な・・・雑用係だった。

隆弘

お、俺は、雑用係じゃない！！役者だ！

加奈子

才能なき、役者か・・・くくく（笑う）。

隆弘

何！

加奈子

花のない者を、役者とは呼べぬ！やれ、緒方！

銀治朗

ウィ〜！発射5秒前、4、3、2、1、ドッカーン！

阿部、慌てて効果音を入れる。

隆弘

うわあああ！

隆弘倒れる。

隆弘

俺は・・・俺は・・・一体どうすればいいんだ！

加奈子

とどめをさせ！阿部！

阿部

ウィ〜！

隆弘

おじさん・・・おじさん・・・どうして！

阿部

ウィ〜ガシャン、ウィ〜ガシャン。

隆弘

おじさん、朝倉に恨みがあるんじゃないやなかったのか。朝倉を憎んでいるんじゃないやなかったのか！

阿部

確かに、私は長年朝倉様から不当な扱いを受けてきた。ナイスガイコンテスト

(※9)では朝倉様の引き立て役で終わり、借りたミステリー小説の表紙に大きく犯人の名前を書いてあったり(※10)・・・そのたびに私は、いつか朝倉を越えてみせる、いつか朝倉をぎやふんと言わせてやると誓ってきた。存在感がないのは朝倉が私の邪魔をするからだと思つてきた。しかし私は気が付いたのだ。朝倉様の存在感が大きすぎるのだ。朝倉様が非常に偉大であったのだ。気が付いたときから、私は朝倉様のために生きて行くこ

とに決めた。朝倉様の手で改造された今、朝倉様のそばで役に立つことが出来ている。存在感がないと言われつづけた私が、あの朝倉大先生のお近くでだ！
加奈子 よくわかってているな！改造人間阿部！
阿部 私はもはや、朝倉様とともに死すのみ！
隆弘 おじさん・・・
阿部 ウィーガシヤン、ウィーガシヤン。
隆弘 おじさん・・・朝倉の悪口言ってるおじさんは・・・最高にかっこよかった・・・でも、今のおじさんは、かっこわりいや・・・
阿部 ウィーガシヤン。
隆弘 目を覚ませ、おじさん！
銀治朗 無駄無駄無駄無駄無駄無駄無駄無駄無駄無駄無駄無駄無駄無駄無駄無駄（※11）！今のこのおっさんは、完全に機械なのだ！朝倉様のためにしか動かない！
隆弘 おじさんああああん！！
銀治朗 やかましい！ドツカーン！
隆弘 うわあああああ！

隆弘倒れる。

銀治朗 ふ、あつけない。勿体無かったよ。雑用。
加奈子 行くか。

銀治朗 はい。行くぞ、改造人間阿部。

ところが阿部、動かない。

銀治朗 どうした？

スタッフ現れて台本片手にナレーション。

スタッフ その時、改造人間となった阿部の、ゼンマイ式の心臓に、あたたかいものが流れた。それは、改造人間が捨てたはずの、人間の心だった。（去る）

阿部 私は・・・

銀治朗 どうした？改造人間阿部。

加奈子 命令が届かなかったか？電磁波発射。（携帯電話を向ける）

阿部 私は・・・

銀治朗 様子がおかしい。まさか、朝倉様、失敗ですか？！

加奈子 馬鹿な事を言うな！この朝倉様が失敗するわけがないだろう！いつでも完璧

でかっこいいこの朝倉様が！

銀治朗 しかし、

加奈子 口答えをするなーっ！電磁波！

銀治朗 うわあああああ！

銀治朗、倒れる。

加奈子　　どいつもこいつも・・・俺様の言うことを聞かないからだ。世界中が俺様の言うことを聞けば、良くなるはずなんだ。なのに、みんな俺の言うことを聞かないから・・・だから殺すしかないんだ。みんな死ぬ！死ぬ！バキュン！バキュン！バキュン！バキュン！バキュン！

チャカを撃ちまくる。

響き渡る銃声。

加奈子　　へへ・・・ざまあみる・・・

加奈子、阿部に背を向けた途端、

阿部　　ドッカーン！！

加奈子　　な・・・なぜ・・・

加奈子、倒れる。

阿部　　隆弘くん！（隆弘にかけよる）、隆弘くん、しっかり！
隆弘　　う・・・お、おじ、さん・・・（消え入るような声）
阿部　　しっかりするんだ、隆弘くん。
隆弘　　おじ、さん、目を覚まして、くれたんだね・・・
阿部　　君のお陰だ、君の声があつたから
隆弘　　おじさん・・・へへ・・・かつこよかつたよ・・・
阿部　　喋るな！もう、喋るな・・・
隆弘　　あり・・・が、と・・・（ガクッ）
阿部　　・・・隆弘くん？・・・隆弘くん。隆弘くん。隆弘くーーーーん！！

阿部、泣き崩れる。

突然ピタッと泣き止む。

加奈子、起き上がって拍手。

加奈子　　すつごーい！面白かったですよ！今の！最高です！私、つつい、熱くなつちやいました！

加奈子の興奮とは裏腹に、全員、静かである。

加奈子 ……あれ？
銀治朗 いくらなんでも、ちよつとやりすぎだったよね。
隆弘 もうちよつと、いい奴だよ。
加奈子 でも、改造人間とか、面白かったですよね。それに、なんとかさんだつて行方
知れずだつて……
阿部 水谷ですか。
加奈子 その人はどうなったんです。
隆弘 水谷さんか……
阿部 この前劇団宛てに、りんごのダンボールが届きました。
隆弘 津軽の実家で、りんご作つてんだつてさ。改造人間とか、あるわけないだろ。
加奈子 そりゃそうだけど、でも……
阿部 ……殺しちや、ダメでしょう。
銀治朗 そういうことだね。
隆弘 殺すのは、ダメだよな。
加奈子 でも、今のはお芝居ですよ。
阿部 我々はお芝居を作つていたのではないんです。
加奈子 え？
阿部 我々は……朝倉への復讐を考えていたのですよ。
加奈子 ……
隆弘 できつこないつてことだ。

銀治朗 そうだね。
加奈子 でも、
阿部 聞きましたか？私の台詞。「朝倉大先生のお近くで役に立っている」ですよ。
隆弘 おじさん……朝倉が好きなんだろ。
阿部 悔しいけれど……その通りです。私は……朝倉が好きなのですよ。学生の
頃、朝倉に憧れて、一緒に劇団設立して。朝倉と一緒に何かやつてるとね、ただ一緒にや
つてただけで気持ちが大きくなるんですよ。だから、いつまでたつても、この劇団を
離れられない。
銀治朗 わかるよ、その気持ち。
加奈子 ユキちゃん。
銀治朗 学生時代の恋が忘れられなくてね。
加奈子 ……つきあつてたんですものね。
銀治朗 (少し笑つて) 嘘だよ。付き合つていたなんて。
阿部 朝倉は銀治朗のことをただの友達だと思つていた。たくさんいる友達の中の、
一人。その他大勢の中の一人、というぐらいにね。
銀治朗 わかつてた。あの人ね、今でもあたしが学生時代一緒だつたつてこと、気づい
てないんだよ。いつも誰かに囲まれてたから。その他大勢の一人でしかないあたしのこと
なんてね。
隆弘 その他大勢は、どんなに頑張つても主役にはなれない。
加奈子 隆弘さん。

銀治朗 ヒロインにもなれない。
隆弘 この劇団と朝倉に憧れて・・・だけど、自分じゃ朝倉を振り向かせるほどの力
はなくて。悔しくて、勝手に朝倉を悪者に仕立て上げて・・・
加奈子 だけど、朝倉さんは悪いことをしてるんですよ。ほら、政治献金。
阿部 朝倉は、政治のことなんてよくわかっていないんですよ。本当に悪いのは、朝
倉の名前を利用してしている、周りの政治家連中だ。
加奈子 だったら、その人たちを警察に届けば・・・
阿部 こんな不用心にメモを置いておく朝倉のことです。もう、警察に情報は漏れて
るでしょう。私たちの出る幕なんてありませんよ。
隆弘 朝倉が逮捕されたら、朝倉の新作、読めなくなっちゃうのかな。いやだな。
銀治朗 このままばれなきゃいいのね。
加奈子・・・そうですね。
隆弘 馬鹿だな、俺たち。本当に。
阿部 正義の味方か。
四人 チーム・イラク攻撃に反対する会！

決めポーズ。

間。

ちよつと、笑う。

加奈子 楽しかったですよね。
銀治朗 いい夢見させてもらったよ。
隆弘 目、覚めたよ、あの台詞。
加奈子 えっ。
隆弘 「花のないものを、役者とは呼べぬ」。
加奈子 口からでまかせです。
隆弘 いや、その通りだ。どんなに努力しても、手に入らないものはある。
阿部 そいつが欲しかったんだな。いや、隆弘くんだけのことじゃないさ。
加奈子・・・ごめんなさい。
隆弘 本当はね、自分でも気づいてたんだ。加奈子ちゃんのおかげで踏ん切りがつい
た。ありがとう。
加奈子 ごめんなさい。
銀治朗 さあ、雨も止んできたみたいだよ。
阿部 そろそろ片付けますか。
加奈子・・・終わり、ですか？
隆弘 だって、雨が止んだらここにいる理由もないだろ？
加奈子・・・劇団を作るって話は？
隆弘 劇団・イラク攻撃に反対する会？

加奈子 そう、それ。
隆弘 楽しかったよ。ありがと。
銀治朗 小降りになってきたね。
阿部 少し濡れるくらいは平気でしょう。
隆弘 もうすぐ夏だしね。

それぞれ、帰る準備をはじめ。
加奈子は動かない。

加奈子 待ってください！これで終わりですか？せっかく、会えたのに。これで終わりなんですか？あたし、すごく楽しかった。朝倉さんが、悪者だとか、悪者じゃないとか、そういうことじゃない。ただただ楽しかった。朝倉さんが振り向かなくっても、花なんて手に入らなくてもいい。私、楽しかったんです。ただ、ただ楽しかったんです。みんなだつて、楽しそうだったじゃないですか。それなのに・・・終わりなんですか？

銀治朗 あたしも、楽しかったよ。
阿部 さ、そこを片付けて。
隆弘 戸締りはいいな。
阿部 それでは。
加奈子 ……さようなら。

加奈子、率先して帰ろうとする。

隆弘 また明日！

加奈子、振り返る。

銀治朗 また明日。
阿部 また明日。
加奈子 ……また明日？
隆弘 明日、俺の最後のレッスンが終わったらさ、活動場所決めようよ。劇団・イラク攻撃に反対する会。まさか、本当にここでやるわけにはいかないだろ？
加奈子 ……はい！
銀治朗 劇団名も考え直そうよ。もっと可愛いやつがいいよ。
加奈子 ははは。
阿部 晴れてきましたね。もう夏の空です。
加奈子 はい。
隆弘 帰るか。
加奈子 はい！！

それぞれ、事務室を出て行く。明るい音楽が聞こえる。加奈子、一度振り返って、笑顔でもう

一度事務室を見ると、出て行く。阿部は電気を消した。うつすらと、「また明日」の文字が浮かんで、また消えた。

幕

「註 釈」 これが書きたくて改訂版を作ったと言っても嘘じゃない。

※1 朝倉正日（ジョンイル）・・・初回公演では「朝倉サトシ」。朝倉は当時ハマっていたドラマ「ケイゾク」の悪役の名前からとった。ファーストネーム「サトシ」というのは劇を見に来た後輩の名前だった。ファーストネームは何でも良い。内輪ウケとか時事ネタ狙った名前が望ましい。

※2 マウンテン・・・名古屋にある喫茶店。そのパスタはさながら油の池に浮かぶうどんの山である。マウンテンの名に恥じないボリュームたっぷりのメニューもさることながら、メロンスパや納豆スパといったキワモノ系メニューは全国的に有名である。完食した者は「登頂」と称えられるが、殆どの者は「遭難」する。

※3 ゴルバチョフ・・・イラク攻撃に反対する会だからブッシュかな、と思った。でもそれはあからさまで嫌だったのでロシアにしてみた。その上ゴルバチョフ。レーガンでも良かっただろうか。

※4 ダディ・・・1998年に郷ひろみが出版した恥ずかしい本。たしか離婚騒動のあとに出した赤裸々な本であったと思う。大ヒット。初回公演が行われた2000年の時点ではまだ記憶に新しくネタとしても使えたが、既に忘れ去られていることだろう。削っても問題ないネタである。

※5 GOLDEN FINGER 99・・・郷ひろみがリッキー・マーティンの歌をカバーしたラテンな曲。ダディとこの歌は時間差攻撃だった気がする。あの頃私の中で郷ひろみが流行った。

踊りは下手な奴が踊ったから完全なるネタとなった。こちらも削ってくれて構わない。てゆうかそんなんばつかである。

※6 イラク攻撃に反対する会・・・初回公演では「青年の家を守る会」。そんな活動があったため。これも時事ネタ、客が共有してるネタで。

※7 セルフ撮り・・・カメラを自分たちに向けて撮ること。時事の言葉ではなく自分語である。ギャルが「イエーイ」とか言いながらやってるイメージが強い。かといって加奈子がギャルというわけでもない。いや、ギャルでも良いけど。

※8 漫才・・・どうでもいいネタである。

※9 ナイスガイコンテスト・・・ナスがいいコンテスト。

※10 借りた(中略)あったり・・・かなりむかつく。

※11 無駄無駄無駄無駄無駄無駄無駄無駄ア・・・D I O様。

——— 満足。 ———

2003年7月16日

とびたつな